

歴史的建造物の継承と活用：近代化遺産の再生・転用

●東京、大阪、京都 近年の「顔」

- ・東京駅（2014 免震レトロフィット←1914、辰野金吾）：復原、復元、創作
- ・東京中央郵便局（2014←1931、吉田鉄郎）：モダニズムの傑作
- ・万世橋駅（神田、2013←1912）：小規模店舗←鉄道高架
- ・国立西洋美術館（上野、1998 免震レトロフィット←1959、ル・コルビュジェ）：世界遺産に
- ・国際こども図書館（上野、2002←1908、安藤忠雄）：こども図書館←帝国図書館
- ・赤煉瓦倉庫（横浜、2002←1911、妻木頼黄）：日本での大規模リノベーションの先進的成功例、横浜市の先見性、周辺開発とセット
- ・中之島公会堂（大阪、2002 免震レトロフィット←1918、岡田信一郎）
- ・ジューライオンミュージアム（大阪、2015←1923）：外車展示場←住友倉庫
- ・京都市の小学校：京都芸術センター、マンガミュージアム、ゲートホテル、ホテル青龍（京都）
- ・奈良監獄（奈良、2020←1908、山下啓次郎）：ホテル←監獄

●積極的なデザインとしてのリノベーション、コンバージョン

：1990年代以降の重要建築プロジェクトを挙げるなら

- ・テート・モダン（ロンドン、2000←1952、ヘルツォーク・ド・ムーロン）←テムズ南岸の発電所
国際コンペ、外観はほとんど変化なし、巨大なタービン室を活かした展示空間
→ 新築はつまらない、リノベーションの方が面白いという価値観
北岸のセント・ポールからミレニアム・ブリッジ（ノーマン・フォスター）で結ばれる
近代化に伴う工場、迷惑施設、ブラウンフィールドの再生、バターシープロジェクトに続く
- ・オルセー美術館（パリ、1986←1900、ガエ・アウレンティ）←駅
建てられた時代（1900 パリ万博）と転用後の内容（印象派）が照応
- ・ルーブル美術館（パリ、1988、イオ・ミン・ペイ）←王宮、皇帝宮とセットで、パリの文化戦略
- ・自然史博物館（パリ、1994←1889）

●文化財を都市の資本と考える：都市戦略の一環としての遺産の活用：都市デザインの新しいフェーズ

存在した事実、時間がつくる物語＝記憶：そこ、その物にしかないユニークな価値

：かつて～であった、そして今は～である：新築では得られない

- ・サラ・ボルサ図書館（ボローニャ、2001）←証券取引所
- ・ガソメーター（ウィーン、2001←1899、ジャン・ヌーヴェル、コープ・ヒンメルブラウ他）
ショッピングセンター、集合住宅←ガスタンク
- ・フィアット・リンゴット（トリノ、2002←1921、レンゾ・ピアノ）ショッピングセンター、ホテル他←自動車工場
ショッピングセンター、ホテル：異化効果
- ・モンテマルティーニ博物館（ローマ、1997←1912）←発電所
図書館、美術館、文化施設への転用：歴史、文化、価値創造との親和性
- ・クール・サンテミリオン（パリ）：セーヌ河岸のワイン貯蔵庫→国立図書館移転に伴う新市街

●先進地 台湾

台湾では日本統治時代の建築物の再生、転用が進む：

建設当時：内地よりも理想的な都市計画、近代教育を受けた技術者、質の高い建築物

結果的に：近代化遺産、産業遺産への理解が進み、再生・転用も積極的

「発揚多元文化」（文化資産保存法、1982、2005）：日治時代を否定しては現在が成立しない

- ・高雄、台湾製糖保稅倉庫群→駁二芸術特区：鉄道博物館、展示会場、ショッピングセンター
：LRT（路面電車）等、都市の地区、交通の再編を含めた大規模プロジェクト
- ・台南、林百貨店+旧末廣町店舗住宅：リノベーションによる商業的成功
：戦後日本の共同建築（防火建築帯、防災建築街区）の先駆
亭仔脚（騎廊）は沼津アーケードの源泉、静岡呉服町、清水銀座も類例

●静岡県 街の遺産

- ・浜松：浜松銀行協会→木下恵介記念館、警察署→鴨江アートセンター、静岡銀行→新館増築、水道施設
- ・清水、日の出地区木造石張り倉庫群：清水港再配置計画、ミナトブンカサイ→海洋文化都市構想
- ・伊豆石の蔵：天竜川下流、清水、吉原、島田…
木材回漕の帰り船、バラストとして石を運ぶ、広域的流通、地域の遺産をつなぐ物語

●コーリン・ロウ、フレッド・コッター『コラージュ・シティ』

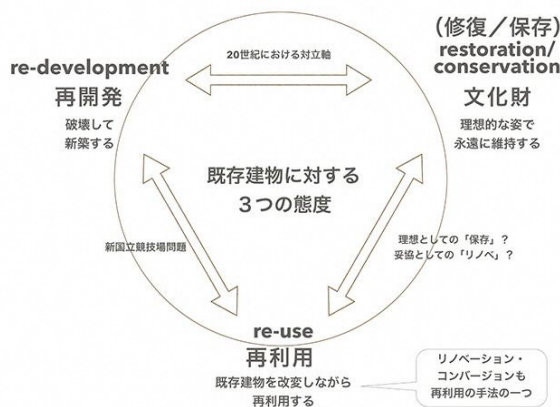
：長い歴史を経た都市に見られる、異なる時代につくられた形態＝時間の積層、共存を、都市のあるべき状態として掲げる。時間が止まった理想ではなく、都市が時間のなかで変転しつつ存続していく限り、都市とはそういうものである、という認識。

ひとつの建築物のなかに時間の多層性が見られる典型的な例が、再生、転用。『コラージュ・シティ』の理念は、建築物の再生、転用においてこそ実現しているのではないかな。

●加藤耕一『時がつくる建築』：「今ある状態」から考える、「とりあえず壊す」をやめる

近代：開発／保存の2項対立

再利用：（古代から）建築の本質的あり方、時間のなかで使い続ける：再利用というあいだ



<http://10plus1.jp/monthly/2017/06/issue-01.php>

詳しくは「都市デザイン史から見た近代化遺産の再生・転用」を検索してください。



図1 東京駅:再生の魅力を広く知らしめた



図5 テート・モダン:世界的な再生・転用の潮流を生み出した



図2 東京中央郵便局:再生・転用によって裏側が見えるように



図6 サラ・ボルサ図書館:屋根のある都市の中心広場

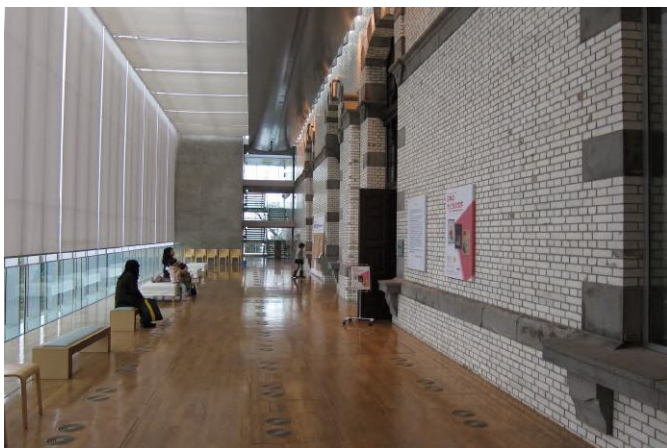


図3 国際こども図書館:かつての外壁が内壁に



図7 ガソメーター:ガスタंकを集合住宅等に転用



図4 ジーライオンミュージアム:レンガ倉庫がクラシックカーの展示場に



図8 フィアット・リンゴット:自動車工場をショッピングセンター等に



図9 モンテマルティニ博物館：機械と古代ローマの出会い



図13 林百貨店+旧末廣町店舗住宅：地上に続く亭仔脚（騎廊）



図10 クール・サンテミリオン：ワイン貯蔵庫を商業施設に



図14 浜松市水道施設：かつての機械がそのまま残る



図11 駸二芸術特区：台湾製糖の倉庫群をアートゾーンに



図15 清水日の出地区倉庫群：特徴的な景観は地域の資産



図12 林百貨店+旧末廣町店舗住宅：再生によって観光拠点となった



図16 浜松市中ノ町の伊豆石の蔵：かつての循環型経済を伝える